

論壇

隠居、現役…多様な60代

「定年制をやめたらよいのに」。
20年近く前のことだが、米国の研究者からそう言われて驚いたことをよく覚えている。当時の私の頭の中では、定年制は当たり前のこととして受け入れられるものであった。しかし、今の日本の現状を見ると、定年制を本格的に見直す時代が来たと痛感するようになってきた。

私は現在65歳であるが、同年代の友人を見ると、実に多様である。5年近く前に仕事をやめ、隠居生活みたいなきことをしている友人もいる。一方で現役の社

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

長で経団連の副会長という大変な仕事を元気にこなしている人もい

る。ただ、そうした中で気になるのは、まだ元気に働きたい気持ち強いのに、65歳を境によい仕事の口がなく、いや応なしに引退生活を送っている人が多くいることだ。

疑問を持ちながら働いている人も多いはずだ。

人生90年、100年の時代になるろうとしている。65歳で定年になって、それから25年も30年もどうやって過ごしたらよいのか。若い時のようにはいかなくても、ゆったりと働きたいという人は多いはずだ。

定年制を見直す時代の到来

多くの人は定年制の壁にぶつか

っている。大手メーカーでは60歳が一応の定年の時期で、それから65歳ぐらいまで仕事は続けられるが、60歳の後はそれまでの半分から3分の1程度の賃金となってしまう。昨日までと同じ仕事ができるのに、なぜ給料が半分以下になってしまうのだろうか。そうした

年齢に縛られない働き方

70歳や75歳、人によっては80歳まで働こうとすれば、40歳から50歳ぐらいに仕事を大きく切り替えることも必要であるはずだ。

米国の大学では、定年制は違法であるとされる。定年制は年齢に対する差別であるからだ。年齢を重ねて仕事の成果が低下すればそれに応じて賃金が下がるということはあっても、単純に年齢で解雇の時期を決めるのは認められないということだ。大学の教員だと、個々人の業績や貢献が見えやすい。シニアの先生でも成果が下がれば賃金も下がるが、シニアでも頑張っている成果を上げ続けているれば、高い給与を維持できるのだ。成果が出ないで賃金が下がるので、年金をもらった方が得ということでも、早めに引退する人もい

る。定年制度を撤廃してからのほうが、米国の大学はより柔軟に機能しているように見える。

定年を大前提としている日本人の人生の中で、突然に定年制を廃止することは難しいだろう。ただ、これからも永遠に定年制を維持できるとも思えない。できるだけ早く日本社会が適応していくため、そして多くの人が自分の働き方を見直すためにも、定年制をやめる企業がもっと増えていくことを期待したい。それによって、年齢に縛られないもっと柔軟な働き方を見つけることができる人が増えるはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。